

第66回 卒業式

at: 本校体育館 3/11(土)



卒業生に送る言葉

PTA会長 菊地 絵美

卒業生の皆さんご卒業おめでとございます。保護者の皆様におかれましても、感慨深い思いでこの時を迎えられたことと思います。

三年前、新型コロナウイルスの影響で世の中が大変な状況になり、入学式は中止、学校にも登校できずオンライン授業、行事は中止になるなどいろいろな事が変わってしまいとても大変な思いをしてきたと思います。皆さんが思い描いていた高校生活は送れなかったかもしれません。しかし、そんな困難な状況でもさまざまな実習や授業を通して、資格を取得し、仲間と共に助け合いながら立派に成長してきたと思います。ここまで頑張れたのもいつでも温かく見守ってくれた校長先生や先生方のご指導のおかげだと思っております。ここで深くお礼を申し上げます。

これから皆さんは社会に出て就職して働く人、大学や専門学校に進学する人などそれぞれ進路は違いますが、夢に向かって旅立つのはみんな一緒です。新しいスタートで不安と希望でいっぱいだと思いますが皆さんなら大丈夫です。農産高校で学んだ多くの事を活かしてもっと成長して行ってほしいです。

これからも夢を叶える為の努力を惜しまず、自分を信じ、時には周りの人の助けを借りながら、大きく羽ばたいていてください。皆さまのこれからのご活躍を期待しております。

卒業する皆さんへ

校長 江森 忍

春の息吹を感じる季節となりました。私にとって、農産高校は、東京都の教員として初めて勤務した学校でした。今年度四月に、二十年ぶりに農産高校へ帰ってくるのができ、とても懐かしく感じました。五月に行われる体育祭、近隣の方々が楽しみにしてくださっている農産祭などの二大行事、クラスの生徒と行った様々な活動など、楽しかったこと、苦労したこと、時にはぶつかったこと、農産高校での思い出がよみがえってきました。

今、少しずつ、地域のイベントなどが実施されるようになってきました。生徒の皆さんは新型コロナウイルス感染症対策のため、思いつき声の出せない体育祭、様々な制約の中での文化祭など、精一杯の活動ができなかったかもしれません。でもだからこそ、「今、高校で学ぶ意味」や「自分のこれからの未来」など多くのことを考えながら学校生活を過ごしてきたと思います。皆さんがこの農産高校で得たものは、専門の勉強に打ち込みながら努力したのと同じだけの、本当の強さと優しさです。是非、農産高校で学んだことを誇りとしてください。これから先は、今までの勉強が土台になります。今まで学んだ専門の知識や技術をさらに磨き続け、楽しく、多くの人に喜んでもらえる、やりがいのある自分の未来を作り上げてください。

様々な社会情勢から予期せぬ事が起きるかもしれません。個人的にも人生の岐路にたつて迷うこともあるかもしれません。そんな時、農産高校で学んだ三年間を思い出してください。自信を持って、深く考え、決定し、行動してください。社会に出たときこそ、農産高校での学びを生かしてください。

もし、途中で困ったことができたなら、いつでもここへ帰ってきて、何でも遠慮なく相談してください。農産高校はみなさんの故郷です。皆さんの相談相手になって、よりよい道を見つけてお手伝いをしたいと思えます。

御卒業、おめでとうございます。自分の未来は自分でつくるのだと思います。未来に向かって、自分自身の道を切り開いてください。一人一人の前途に幸多からんことを心から祈念します。





「ご卒業おめでとうございます」

副校長 大畑 哲也

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございませう。

保護者の皆様、ご卒業誠におめでとうございませう。三年間にわたる本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、学校生活や行事等が制限された三年間だったと思います。本来であれば、高校三年間で様々な場面で活躍の場が設けることができ、学業以外でも特別活動に邁進できたはずだったと思うところがあると思います。卒業生の皆さんは、Withコロナの時代を過ごす中で、学校行事を制約のある中で工夫やどうすれば実施できるのか色々考える機会が増えたのではないのでしょうか。厳しい環境下での活動は、工夫を考え困難に打ち勝つ力が身に付いたのではないかと思ひます。皆さんの努力に心から敬意を表します。

卒業生の皆さんは、卒業後に大学進学、専門学校、就職等さまざまな進路に進みます。自分の将来の目標を実現させるために努力し邁進していくと思ひます。その過程では、色々な課題が出てくるかも知れませう。その時は、高校時代に頑張った事や工夫した事を糧にして乗り切つて欲しいと思ひます。

最後に卒業生の皆さんに、私の好きな言葉を送ります。「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成さぬは人の為さぬなりけり」という言葉があります。江戸時代、米沢藩主の上杉鷹山の言葉です。どんなことでもやろうと思つて努力すれば、必ず実現できる。逆に無理だと思つてあきらめてしまつては、実現できないという意味です。是非、諦めずに努力し夢を実現してください。

これからの皆さんの未来が幸多きものとなることを祈念して、卒業の言葉とさせていただきます。



旧生徒会長より挨拶

東地 慧磨

私たち旧生徒会は、この一年間制限がありながらも積極的に活動を行つてきました。

生活指導の先生方や、校長先生、もちろん生徒同士など、たくさんの人とコミュニケーションをとり、得られた成果を少しでも活用してもらえらうように、来年度の生徒会へ、しっかりと引き継ぎをしました。地盤固めを中心に交渉を行なつてきたため、目立った成果や改革はできませんでしたが、きっとこれから交渉などを行つていく上での基礎となると考えています。

来年度の生徒会には、今年私たちが行つてきた続きを無理に引き継ぐより、その時に一番必要な事をよくよくしていつてほしいと伝えました。ぜひ型に囚われる事なく活動していつてください。

一年間本当にありがとうございます。



「上野組」解散！

3年1組担任 上野信二

三年前、パソコンでのやり取りから始まった高校生活。気がつけば高校を巣立っていく季節になりました。学年4クラスのうち3クラスが初めて担任を持つ若手教員の中、決して若くはない担任として、気を緩めることのないように言い聞かせながら皆さんと向き合ってきました。

「うるせいなー」「またかよ」「何でいつも怒ってるんだ」と思っていたことでしょう。しかし、一つ一つ注意され、叱ってもらえるのは高校生活までです。高校を卒業すると、学生であっても、もう「大人」。「大人」扱いになってから痛い目に合わないよう厳しく接してきましたつもりです。皆さんはやっと「小言」を聞かなくて済むようになり解放感でいっぱいになると思いますが、皆さんが卒業した後は、先生もほっとすると共に、ぽっかりと穴が開いた日々がしばらく続いてしまうのです。

皆さんはどれだけ成長しましたか？先生の年齢になると、三年間では何の変化もありませんが、皆さんの若さでは入学の時と今とでは大違いです。みんな大きくなりましたよ。三年間「上野組」によく耐えました。今日ここに、八回目の「上野組」の解散を宣言します。

卒業おめでとう。

そして大きく羽ばたこう！



「感謝」

3年2組担任 佐々木巧

三年生の皆さん卒業おめでとうございます。またPTAの皆様ならびに保護者の皆様においては、三年間本校の教育活動にご理解、ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。「高校生活卒業」という人生の節目を無事に迎えることができたことはとても嬉しく思います。

この三年間を振り返ってみると、「我慢」の日々が続きました。新型コロナウイルス感染拡大の影響によって、当たり前前の学校生活ができなかったと考えるか、それとも苦しいことを乗り越えて良い経験ができたと考えるか。考え方はそれぞれたくさんあると思います。

これから先、皆さんは今後の人生、楽しいことや嬉しいこともあれば、苦しいことや落ち込むこともあると思います。反省することは大切ですが、一番いけないのは「自分はダメだと思ひ込み」、自分の殻に閉じこもってしまうことです。

つまずいたり、へこんだりした時は、農産高校での三年間を思い出してください。一歩ずつ前を向いて進み、諦めずに向き合った姿は大きな財産です。皆さんの周りには、保護者の皆様・友人・先生方と多くの人の「支え」で「今」があります。農産高校卒業した後も、みなさん一人一人の姿を見ている人は必ずいます。必ず助けられるし応援してくれます。日々一緒にいる人を大切にし、そして全力で社会を走り回って、笑顔で自分らしい人生を歩んでください。

三年間本当にありがとうございました。これから先も皆さんのことを応援しています。





「普通が当たり前前ではないことの大変さと3組解散!!!」

3年3組担任 工藤大志

2020年4月、高校入学を楽しみに待っていたが、新型コロナウイルスにより自宅学習。6月やっとに登校が許されたものの、滞在時間2時間のみの登校、偶数奇数の分散登校、短縮午前授業、ほぼ全ての学校行事の中止…その後、少しずつ高校の日常になりつつあるも、部活動も制限の中でやらざるを得ない状況が続く…

私は、みんなの不慣れた学校生活を思うと、申し訳ない気持ちでいっぱいである。彼らのやるせない気持ちを思うと、すまないという気持ちでいっぱいである。もちろん、こればかりは誰のせいでもなく、どうしようもないことである…

そんな中、今、新型コロナウイルスにより始まり、高校三年間を終えるみんながいる。

正直言って、本来みんなが思い描くものとは異なる高校生活を送り、理不尽な事も多々あったと思う。しかし、逆に考えて欲しい。本来の高校生活では得られなかった体験が得られたと。この代の高校生しか体験出来ない経験を得られたと。この先の人生に置いて、適応力はどこに行っても求められるからこそ、唯一無二の生きていく経験値が身についたことは誇れる事だと思つ。

この先、この経験値を生かして辛いことがあっても胸を張り、美しい姿勢と笑顔で突き進んでください。皆さんと出会えたことに感謝します。

ご卒業おめでとうございませす。

P.S. あ、3組解散!!! W



「人生のスタートラインに立った皆さんへ」

3年4組担任 谷口百仁加

皆さん、ご卒業おめでとうございます。今日に至るまで、思い通りにいかないことがたくさんあったのではないのでしょうか。人生は小説より奇なり。人生いつ何が起きるか分かりません。このことを高校生の段階で実感できた皆さんは強く柔軟な大人になることでしょう。そして、パワーアップした皆さん、卒業後に同じ志をもった仲間と、今までやりたくてもできなかったことをたくさんやってみてください。とても楽しいですよ。

皆さんとあまり年齢が変わらない私ですが、十年程長く生きている者からの経験から言いますと、逃げていたこと・後回しにしていたことは、巡り巡っていつの日かひょっこりと皆さんの前に現れます。私の場合、「逆上がり」「水泳」「英語」「面接」「家族との関係性」「目の人とのコミュニケーション」がそれにあたりました。「逆上がり」ができないから小学校の先生はやめておこつかな…」「泳げないから友達とスキューバダイビングできないや…」「英語ができないから海外旅行は不安だなあ…」「就職試験で苦手な面接があるなあ…」「家族と久しぶりに連絡取るうかな…」「先輩と一緒に仕事をすることになった。上手くできるかなあ…」。生きていけば、「嗚呼、あの時もっと頑張っていれば…!」と思うことがたくさんあります。ですが、何でも完璧にこなせる人なんていないと思つたんですね。過去にはもう戻れないので、前を向きましょう。今からでも遅くはありません。やりたいことやったもん勝ち! 楽しんだもん勝ち!

皆さんそれぞれの素敵な人生を歩んでいってくださいね。



園芸部 NHK『趣味の園芸やさいの時間』に 出演！

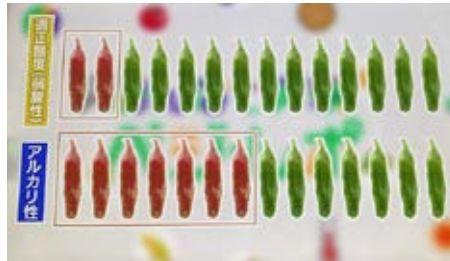
放送日 12 / 18 (土)



顧問の上野先生のご指導のもと「シシトウが辛くなる理由」について、春から秋にかけてシシトウを育て、実食して辛さを確かめる様子が放送されました。シシトウの適正酸度といわれるpH6.0の弱酸性土壌に調整して育てた場合と、pH7.5のアルカリ性土壌で育てた場合とで比較。調整土壌では辛いシシトウの割合が14%程だったのに対し、ア



ルカリ性では育てたシシトウの半数は辛いという結果に。土壌のpHがシシトウの辛さに影響することを実証しました。

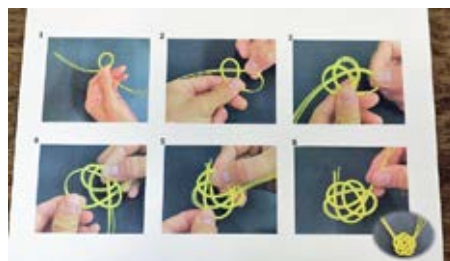


PTA園芸講習会『コケ玉作り』

at : 園芸科造園実習室 12 / 3 (土)



園芸デザイン科造園分野の片岡先生と山崎先生を講師にお迎えし、PTA園芸講習会が開かれました。PTAの講習会は久しぶりの開催という事もあり「コケ玉作りは初めてだけど作ってみたい」「卒業前に体験したい」など、皆さん、それぞれ期待を胸に参加されていました。



コケ玉に飾り付ける水引(梅結び)も先生指導のもと苦戦しながら制作。一人一人の個性が表現されたような、とても素敵なコケ玉が出来上がっていました。



PTA食品講習会『ジャム作り』

at : 食品科園芸加工室 2/4(土)



食品科の味岡先生と大野先生を講師に迎え、ジャム作り講習会が開かれました。

ジャム作りは食品科1年が行う実習で、授業では冷凍イチゴを使いますが、今回は生の「やよいひめ」を使用しました。

ジャムというと、じっくり煮詰めるイメージもありますが、一気に火を通して水分を飛ばす方が、風味も栄養も損なわないそうです。強火の中火で焦げないように鍋の中をOとZを描くように、約10分間かき混ぜ続けました。

ペクチンを添加し、糖度計で糖度を計測。濃縮が適度か冷水にジャムを垂らして確認し、最後にクエン酸を加え、アクをとって、瓶に詰めました。内容量表示より3~5g多めに入れ、軽く蓋をした状態で、脱気箱で加熱殺菌を20分間。その間に、使った器具類を洗い、床を水で流してブラシで擦り掃除しました(ジャム作りよりも洗い物と掃除の方が大変でした!)

殺菌が済んだら、瓶の蓋をしっかりと締め密封し、水に浸けて十分に冷却されたら、ラベルを貼って完成。生徒がデザインしたラベルと、内容表示ラベルを貼ると、すっかり製品らしくなりました。



『活動を終えて』

イベント委員長 及川ひとみ

イベント委員の一番の仕事はなんとと言っても、農産祭!ですが、ここ三年ほどコロナ感染拡大防止の観点から、PTAの参加は見送られており、PTAが出店していた農産祭の経験者がいなくなりつつあり残念です。

ですが、今年度は先生方による保護者向けの講習会が復活し、盛り上がりました。園芸講習会では苔玉を。食品講習会ではいちごジャム作りが行われ、農産高校の授業を体験する良い機会であると共に、保護者同士の交流の場にもなったように感じました。こういったイベントに携わり、農産のことをより知ることが出来たり、他の保護者と繋がりを持つことができ、イベント委員をやって良かったと感じます。

コロナが落ち着き、次年度は様々な行事やイベントが出来るようになることを願っております。